

# ★ 長 根 自 治 会 ★

## 自治会のあゆみ（概要）

蒼然長根山の西に、昭和 19 年、旧国鉄（現 JR）の長根信号所が設置されたことから、長根はこの地域を代表する地名になった。

戦後、中国大陸・満州・樺太からの引揚者、内地で終戦を迎えた人々が、板橋地域に結集し、開拓したのが「板橋開拓」と呼ばれた。また、長根・板橋両地域の既存農家と、その子弟が増反入植したのを、「長根開拓」と呼んだ。このように長根地域は開拓地として出発したが、水田耕作は昭和 36 年の岩洞ダムの完成による引水によって可能になった。

昭和 46 年に「滝沢村自治会連合会」が組織され、13 自治会が誕生した。このとき、長根地域は川前南自治会であったが、昭和 50 年に川前南自治会は、川前中央自治会と川前南自治会に分離された。昭和 51 年、川前南自治会は「長根自治会」と改称した。

なお、長根自治会発足前に長根地域に岩手ハイム、葉の木沢山、東日本ハウス、はんの木の 4 つの団地自治会があり、独自に活動していた。その代表者が集まって討議しその結果、当時長根公民館の管理人をしていた関村久七氏を初代会長として役 350 世帯規模で自治会活動が歩みを始めた。

昭和 55 年 9 月には、現在の南巣子自治会地域が巣子自治会に移籍した。

昭和 62 年には地域内には「滝沢勤労青少年ホーム」が建設され、東部出張所も開設された。以後、地域の中核センターとして、幅広く利用され現在に至っている。

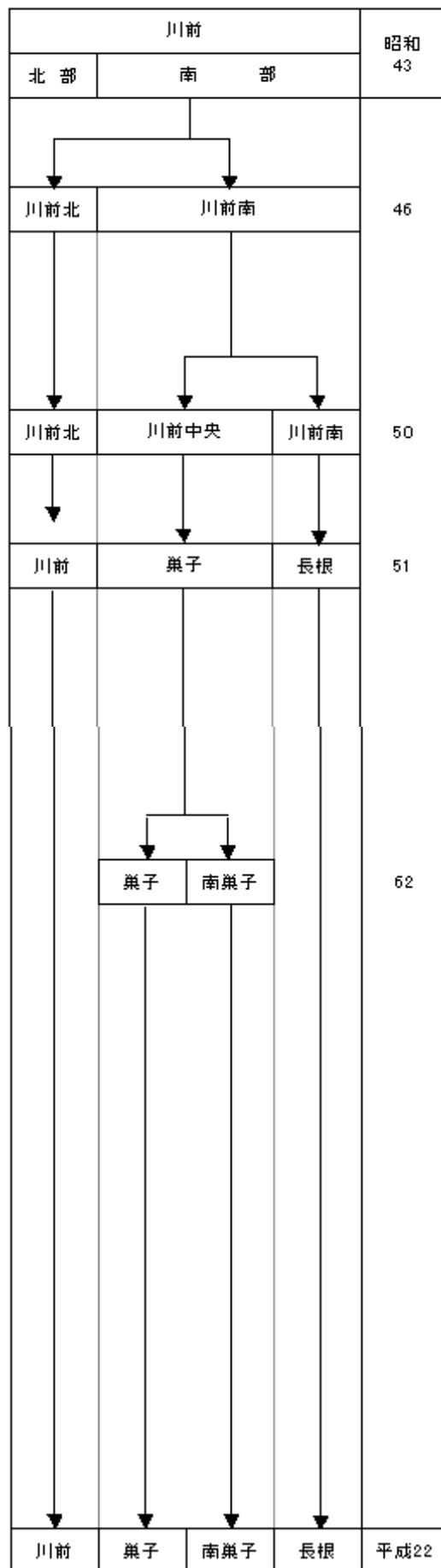
同じく昭和 62 年には地域内には親切の勤労青少年ホーム駐車場で第 1 回長根夏祭りが開催され、毎年、大盛況の中、実施されている。

平成 6 年には 1,000 世帯を超え、その後も増え続け、現在 1,600 を超えるに至っている。

平成 8 年 9 月村事業から分離された敬老会事業を「第 1 回シルバーの集い」として開催した。10 回目の平成 17 年より「敬老会」に改称し開催している。

平成 18 年 3 月地域内に巣子駅が開業し、地域住民の交通利便が大幅に向上した。また、巣子駅線が開通し、公共バスも乗り入れるとさらに利便性が向上した。それらにより、住民の増加、周辺のまちづくりの促進、商業施設建設等地域の新しい核としてのさらなる発展が期待されている。

## 【東部地区自治会の変遷】



# 自治会の地域を空から見る

[平成21年10月現在]

